

## 4) 研修者修了報告会の実施

平成28年度アーツマネジメント研修派遣研修者による研修修了報告会を実施した。冒頭に事務局よりアーツマネージャー育成事業について紹介されたのち、平成28年度の研修者から研修内容に加え、現在の活動状況や今後の展望が報告された。

※同日、特別講座トークセッション「地域コミュニティと芸術～場づくりを支える」(p24-27)を開催。

【日 時】 平成29年8月29日(火) 13:30～14:15

【会 場】 沖縄市民会館 中ホール(沖縄市八重島1-1-1)

【研修者】 砂川政秀(フリーランス制作者/琉球舞踊家)

【研修先】 ①公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)

②公益財団法人神奈川文化財団/KAAT 神奈川芸術劇場

【研修期間】 ①平成28年9月13日～平成28年9月16日、

②平成28年9月20日～平成29年2月28日

【報 告】

### ● 研修先と志望動機

研修派遣以前は、公益財団法人沖縄県文化振興会で文化専門員として勤務。その職務として、「世界エイサー大会」等の運営に携わる中で、制作と広報の重要性と、自身のスキルが足りていないと感じ、研修を志望した。

作品創作の過程での実務向上と劇場と地域との関係を学びたいという動機から、マッチングにより演劇やミュージカル、ダンス等幅広いジャンルの舞台制作を行うKAAT 神奈川芸術劇場での研修を行った。

### ● 芸団協とKAAT 神奈川芸術劇場での研修

これまで琉球舞踊の師範である母の元で稽古を積んできたが、那覇市以外に住んだ経験がなく、仕事に関わる方も9割が沖縄県民。まず、県外の状況を知るために、芸団協の運営する芸能花伝舎で、文化政策や劇場・芸術団体をとりにくく現状や、芸団協が地方公共団体等と協働して行う事業についてレクチャーと現場視察を行った。

本研修先であるKAAT 神奈川芸術劇場では、事業チームに携わり、演劇やダンス公演、ワークショップで稽古場のサポートやチケット対応を行なった。KAATの自主制作公演では、出演者の1人がインフルエンザにかかり、2日間公演を中止するアクシデントが発生。琉球舞踊では、代役で対処できるが、新作のため代役が立てられない場合の制作関係者による対応と議論の過程を経験することとなった。

研修期間を通して多様なジャンルの公演に携ったことで、これまでとは異なる環境で、制作者としての経験を少しずつ積めたことが、自身のスキルアップや思考の裏付けにつながった。制作は小さな作業の積み重ねであり、とにかく動き回ることが重要だと感じた。

### ● 現在の活動

研修修了後に開催した第30回「琉球舞踊穂花会・宮古舞踊んまていだの会」公演では、以前は着手できていなかった広報宣伝を強化して、売上の増加につながり、研修の手応えを得た。他



にも、研修をきっかけに公益財団法人神奈川文化財団の「マグネット・カルチャー展開事業」を個人で受託し、沖縄と神奈川との連携にも携わっている。この事業は、神奈川県内（横浜市を除く）の文化資源を発掘して、空間や場所、発掘された文化資源をマッチングさせ、コーディネートしていく事業である。なかでも川崎市は、県指定無形民俗文化財として沖縄芸能が登録されていることもあり、川崎市にある沖縄県人会と沖縄とのつながりを今一度深めることができないか、芸能を起点にした地域間交流の実現を目指して挑戦している。

【研修者】 犬塚拓一郎（フリーランス制作者／音楽家）

【研修先】 NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク／三陸国際芸術祭事務局

【研修期間】 平成28年12月1日～平成29年2月28日

【報告】

#### ● 研修先と志望動機

研修派遣以前は、がらまんホール、まちづくりNPOコマまち社中において、大学および大学院にて学んだ作曲・編曲や演奏の技術を活かしながら、公演制作等に携わってきた。研修先となるNPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN）の佐東氏とは、2012、2013年に共に沖縄市でコミュニティダンスのイベント制作に携わっていたこともあり、三陸国際芸術祭でも音楽制作を行っていた。研修では、地域密着型の芸術祭において、会期外の時期に地域との関係づくりをどのように行っているのかを学ぶとともに、市民参加型プログラムの企画やマネジメント能力の向上を目指した。



#### ● 三陸国際芸術祭事務局での研修

三陸国際芸術祭は、東日本大震災後、生活と密着した地域芸能の力に光をあて、国内外の多様な芸能との交流を通して、地域住民が文化活動に携わる機会を作り出す多様なプログラムを実施している。大船渡の酒蔵を活用したイベントスペースで行ったコミュニティダンスでは、地域で働く紳士服店の店主や夏祭りの的屋等、さまざまな面々が参加した。音楽は、犬塚氏の滞在で結成された誰でも参加できる音楽隊「いぬがくだん」。こうしたダンスや音楽の経験のない地域の人に加わってもらうことにこそ意味があると感じた。プロの振付師が考えた踊りではなく、例えば地域に住む普通の女性が自身の人生を踊りとして表現することで、場に凄みが生じる。

コミュニティダンスのテーマとして「定まらなさ」を追求していたことから、大船渡では、あえてその場をコントロールしないことを大事にしてきた。なぜなら、一度きりで終わるのではなく、100年後も続くようなコミュニティダンスを考えているから。マネジメントとは、反対にこうした定まらなさを削ぎ落としていく側面もある。研修を経て、誰かが中心にいない、しっかりしたものがない状況を維持していくマネジメントを強く意識することにつながった。

#### ● 現在の活動

沖縄市のコザに戻り、国際児童・青少年演劇フェスティバル「りっかりっか\*フェスタ」との連携企画を行うため、クラウドファンディングで資金を集め、成功させた。

震災の傷のなか、暖かさと寂しさを内包する地域で研修することで、コミュニティを育むためには弱さという観点も必要だと感じる。いろんな矛盾や葛藤の中で、新しいイベントやフェスタが見えてくるのではないか。これからも経験や年齢にとらわれない、「定まらなさ」をテーマに取り組んでいきたいと決意を新たにした。